

高層ホテルの施設担当者奮闘する

株式会社神戸ポートピアホテル

1 設備の被害状況

スプリンクラー設備のうち、南館16階「宴会場」のスプリンクラーヘッド1か所が地震の揺れにより破損し、40分間にわたって当該ヘッドから水が放出されたため、16階及び15階の一部が水損を受けた。しかし、エキスパンション部を含めて、配管の被害は認められなかった。ヘッドの破損の原因として、スラブの積載荷重の違いによる揺れの相違、又は、建築素材の違い、例えば壁体ボードとブロックとした場合の揺れに対する耐久力の相違から生じたものと推定される。

他の施設の被災状況は、本館屋上の高架水槽（鉄パネル樹脂ライニング）の一部が破損し漏水したほか、島内の液状化により、地下2階の機械室床面に「ヘアークラック」が生じ、泥が噴き出したため床面全体の表面に約5ミリの泥が堆積した。また階段、防火戸の破損等は無かったが、各客室のドアのうちで施錠装置の故障により開放できないものが数か所あった。

2 関係者の初期対応

南館16階のスプリンクラー設備警報音の鳴動と、防災センター内の「CRT」のスプリンクラー設備発報表示により中央監視盤室の係員が現場に急行、40分後に当該階のアラーム弁を閉鎖して停止させた。

スプリンクラー設備のヘッドは施設係員により即日交換し、復旧させた。

3 教訓

- (1) 消防用設備等及び家具類、フライヤー等の燃焼器具の固定の必要性、特に高層階になるほどその必要性が大きくなる。
- (2) 消防用設備等のポンプ室及び電気室などを地階の部分に設ける際は、その液状化対策として床面からの敷居の高さを大きくとるなどの工夫がいる。
- (3) 建築物のエキスパンション部の配管等の貫通は極力避けた方が良い。